

令和6年度第3回 燕市図書館協議会 会議録（要旨）

日 時 2月12日（水）午前9時30分～11時00分
会 場 燕市中央公民館 3階 中ホール
出席委員 相澤 一徳委員、加藤 一夫委員、田村 京子委員、山本 智香子委員、
田中 淳子委員、山口 博幸委員
欠席委員 大竹 正宏委員、白鳥 みのり委員、柳原 康浩委員
事 務 局 燕市教育委員会 小林教育長、岡部教育次長、
社会教育課 石黒社会教育課長、古澤課長補佐、石村係長、高口主任
指定管理者 加藤館長、山田業務責任者
報道機関 なし
傍 聴 者 なし

内 容

報告

- （1）令和6年度図書館利用状況（R6.12月末現在）について
- （2）令和6年度図書館事業実施状況（R6.12月末現在）について

協議

- （1）令和7年度図書館事業計画（案）について
- （2）第3次燕市子ども読書活動推進計画（案）について

報 告

- （1）令和6年度図書館利用状況（R6.12月末現在）について
《事務局説明》
（質問なし）
- （2）令和6年度図書館事業実施状況（R6.12月末現在）について
《事務局説明》
（質問なし）

協 議

- （1）令和7年度図書館事業計画（案）について

○委員

来年分水公民館はずっと改修工事と伺っているが、図書館事業等に影響はないのか。

○事務局

改修工事期間は、分水公民館の近くの体育館に仮設の図書館を運営する予定。図書館イベントを実施する際、大きいイベントを分水で行うのは難しいので、吉田・燕で対応を進めていきたい。

○委員

ブックトークは大体小・中学校で実施しているのか。燕地区や分水地区でも機会があれば読み聞かせボランティアを行いたい。

○事務局

ブックトークは各学校から依頼があるとスタッフが伺う形となる。全部の学校を対象にしているので、事業の PR をして依頼が増えるように心がけたい。

○委員

ブックトークに関して、前はボランティアも一緒に行っていたが、今は図書館スタッフだけなのか。

○事務局

今年度は吉田小学校からの依頼しかなかったもので、低学年はボランティアさんの御協力を得て、3～6 年生のブックトークは図書館のスタッフが実施した。燕や分水で依頼があったら、図書ボランティアへお願いしたい。

○委員

図書館を使った調べる学習コンクールについて、図書館の本や資料を借りると思うが、親子へ「ここはもう少しこういう風に変えたほうがいい」等のアドバイスをを行っているのか。

○事務局

親子のさばーと教室という形で開催をしている。今年度に関してはワークショップ形式で実施した。図書館スタッフが参加者に調べ方を教えたが、表を作って調べたいというお子さんに対し「例えば図鑑で調べられるよね」という親子の会話から、図書館スタッフが分水図書館へ案内。実際分水図書館の棚を見て、図鑑を借りたというケースがあった。

(2) 令和 7 年度図書館事業計画 (案) について

《事務局説明》

(質問なし)

(3) その他

○委員

自分は読み聞かせボランティアを行っているが、中学生に読み聞かせを行うことについてどう思われるか。中学校での読み聞かせはやらなくてもいいと思われるか、それともやってもいいと思われるか。

○委員

正直読み聞かせはあんまり考えたことは分かったが、いかに中学生が自ら選んで、読んでもらうようにしてもらうための取組が必要だと考えている。読み聞かせの可否はわからないが、活字離れが進んでいる状況の中で、様々な工夫が必要。

○委員

中学生・高校生へ読み聞かせを行っている団体もあると聞く。そういう取組があると子供たちも本を読むきっかけになると思う。

○委員

私は後期高齢者だがつばめ電子図書館を利用している。年配の人が本を読むのはなかなか大変。毎月2冊ぐらい読んでいるが、耳で聞くのが私どもの年代には非常に有効。子どもには活字に触れてもらいたいが、年配の方は目が悪くなるので、耳で聞くのも一つの方法だと思う。電子図書館も高齢者向けにアピールしていただきたいと思う。

○委員

法律に関するセミナーの開催が年1回とあるが、具体的な内容が分かればお聞きしたい。

○事務局

令和4・5年度は弁護士の先生を講師に招き、令和3年度は相続・相続人をテーマに実施した。

今年度は警察署の方に来ていただいて防犯を含めたお話をさせていただく予定。来年度は講師・テーマ共に検討中。

○委員

年1回ということだができれば定期的に開催してほしい。法律関係は民事の問題等どんどん法律が変わっているほか、相続の問題や民事関係は興味を持っている方が非常に多い。定期的に年2回ほどテーマを挙げてアピールしていくのも来館者を増やすためのひとつだと思う。

○委員

ブックバスは自分の園でも活用させてもらっている。図書館協議会に参加すると、図書館で色々な事業をしていることに感心する。

保育園ではコロナ禍以降、貸出し絵本事業を中止していたが、今年度再開した。3歳児の園児が、月に2回自分が選んだ好きな本を家に持ち帰り、親子で読み聞かせを楽しんでもらうという取組で、お帰りのときに

「こんな本借りたよ」と園児が保護者の方に見せているシーンを見てすごく微笑ましく、再開して良かったと思っている。

旅する絵本は、他の園の図書が来る。園から旅してきたんだよと言いながら子どもたちに担任が読み聞かせをする姿もとてもほほ笑ましく見ている。

私自身は子どもたちに読み聞かせをする機会が減っているが、今後意識して子どもたちに読み聞かせをたくさんしていきたいと思うし、図書館に行く機会増えるようにできることを考えていきたい。

自分の園でも、本がたくさん並んでいるスペースにもおすすめコーナーを作る等を検討しているが、子どもたちがたくさん絵本に触れられるように取り組んでいきたいと思う。

○委員

出張おはなし会として夏休みに図書館の人に来ていただき、何冊か読み聞かせをしてもらっている。おはなし会が終わった後に、子どもたちが実際に本に触ったり「この図書館で借りられるんだよ」と紹介して何冊か貸出している。

ブックバスの話もあったが、夏休みは100人近い子どもたちが児童館を利用するので、全員で図書館へ移動して利用することができない。図書館ではないが、以前防災の関係でネットを通じておはなしをしてもらったことがある。子どもたちは画面に集中して専門家の話を聞いたりして、普段と違う環境の中で楽しんでいたのも、図書館でもネットでのおはなし会に取り組んでみてはどうか。

夏休みの巡回おはなし会も、一年に1回と言わず、春休みや冬休み、文化祭や運動会の振替休日もあるので是非複数回来てもらいたい。

以上